東山健吾教授 履歴・業績

略　　歴

1931年７月18日生まれ
1953年８月　東京芸術大学美術学部芸術学科4年中退、中国・北京へ留学
1954年８月　北京・中央美術学院美術研究所研究生課程修了
1954年９月　北京・中央美術学院美術研究所実習研究員
1956年９月　北京・中央美術学院美術研究所助理研究員
1957年２月　北京・中央美術学院美術史美術理論系兼任講師
1964年９月　北京・中央美術学院美術研究所研究員
1973年８月　中央美術学院在職のまま帰国
1975年４月　東海大学文学部文明学科非常勤講師
1976年４月　成城大学文芸学部非常勤講師
1977年４月　中央美術学院退職
1977年４月　成城大学文芸学部教授
ほかに、1980年より聖心女子大学、跡見女子大学、慶應義塾大学、東北大学、早稲田大学、筑波大学、九州大学、日本女子大学非常勤講師を歴任。また、中国・北京大学考古学系客員教授、國立臺灣大學藝術史研究所（大学院）非常勤講師を勤めた。
2002年３月　成城大学文芸学部教授定年退職
2002年４月　成城大学名誉教授

研究活動

１　概　要

（１）　研究領域：美術史
（２）　主要研究テーマ：前２世紀から９世紀における南アジア・中央アジア・東アジアの仏教美術

特に中国西北地区の仏教石窟寺院とその造形美術

(3) 研究の経緯：

1957年より中国の石窟の現地調査を進め、特に雲岡石窟、龍門石窟、麦積山石窟、炳霊寺石窟、敦煌莫高窟等の予備調査を行った。

1961年より1964年まで甘粛省麦積山石窟を重点的に調査し、中央美術学院美術研究所において調査資料（実測図・文字記録・写真記録）を作成した。また、麦積山石窟との関係を比較研究するため、甘粛省慶陽北石窟寺における中国最初の学術調査を行った。(論文(1)、(3)、(4)参照)

麦積山石窟の正式な調査報告を作成中の1966年に至り、毛沢東が発動した「文化大革命」運動によってリベラルな学術思想と宗教が否定され、紅衛兵の暴挙により調査資料の大部分が失われた。(調査成果の一部は論文(10)、(12)参照)

帰国後「文化大革命」運動の鎮静を待って、1977年より敦煌莫高窟の調査を再開、その研究成果は一連の論文（論文(5)、(6)、(7)、(8)、(9)参照）や『中国石窟』、『敦煌石窟』等(著者(3)、共著・編著(7)、(11)、(13)、(15)、(17)、(20)参照）に纏めた。

現在の主要なテーマは、中国初期仏教美術の表現形式に関する、外来形式の受容と漢代以来の伝統形式についての研究である。(論文(8)、(9)、口頭発表(2)参照)

2 著 作

・主要論文

(1) 「慶陽寺溝石窟“佛洞”介紹」『文物』1963-7

(2) 「日本唐招提寺的建築和造像藝術」『文物』1963-9

(3) 「The Cave Temples of Ching Yang」〈EASTERN HORIZONE〉IV-6, June 1965

(4) 「慶陽寺溝石窟について」『成城文芸』83、1978-2

(5) 「敦煌の仏教美術を支えたもの」『東洋学術研究』18巻2号1979

（6）「敦煌莫高窟第220窟試論」『佛教藝術』133号1980年
（7）「敦煌莫高窟彩塑の展開」『敦煌莫高窟　三』平凡社
（8）「敦煌莫高窟第130窟大仏」『国華』1050号1982年
（9）「敦煌莫高窟北朝尊像の図像的考察」『東洋学術研究』24巻1号1985年
(10)「麦積山石窟の研究と初期石窟に関する二・三の問題」『麦積山石窟』1987年
(11)「欧米・日本へ流出した龍門石窟の石刻尊像」『龍門石窟　二』1988年
(12)「敦煌莫高窟における仏樹下説法図形式の受容とその展開」『成城大学文芸学部創立35周年記念論文集』1989年
(13)「麦積山石窟の草創と仏像の流れ」『中国麦積山石窟展』1992年

・著　書

（1）『光琳』北京・人民美術出版社 1958年
（2）『東鹿県農民画』北京・人民美術出版社 1958年
（3）『敦煌行』潮出版 1987年
（4）『敦煌三大石窟』講談社選書メチエ 1996年

・共書・編書

（1）『日本浮世絵』（共著）北京・人民美術出版社 1961年
（2）『古代史のなかの寺と仏』（共著）毎日新聞 1976年
（3）『中国の美術と考古1』（共著）六興出版 1977年
（4）『デラックス・ギャラリー・中国の美術』（共著）旺文社 1977年
（5）『敦煌への道』（共著）日本放送出版協会 1978年
（6）『敦煌の美百選1』（共著）日本経済新聞社 1978年
（9）『世界考古学辞典』（編著）平凡社1979年
（8）『敦煌の美術』（共著）大日本絵画 1979年
（9）『雲岡石窟の旅』（共著）日本放送出版協会 1979年
（9）『週刊朝日百科・世界の美術』（共著）朝日新聞社 1979年
(10)『世界の文化史蹟・中国の石窟寺』（共著）講談社 1980年
(11)放送大学教材『美術史と美術理論』（共著）日本放送出版協会 1982年

(12) 『敦煌石窟』（共著）平凡社 1982年
(13) 『エクラン・世界の美術』（共著）主婦の友社 1982年
(14) 『シルクロードと仏教文化』（共著）東洋哲学研究所 1979年
(15) 『改訂東洋美術全史』（共著）東京美術 1981年
(16) 『アジアの仏教名蹟』（共著）雄山閣出版 1988年
(17) 『敦煌ものがたり』（共著）新潮社 1989年
(18) 『中国石窟』全17巻（編著）平凡社 1980～1990年
(19) 『敦煌への道』改訂版（共著）日本放送出版協会 1995年

・訳　書

（1）『中国文化大革命期間出土文物』北京・外文出版社 1973年
（2）『中国工芸美術』北京・外文出版社 1974年
（3）『長沙馬王堆一号漢墓』（共訳）平凡社 1976年
（4）『美しき敦煌』段文傑著 潮出版社 1986年

3　主要発表

（1）「1988年10月ユネスコ主催国際学術会議：人文科学におけるシルクロードの意義」における発表「Buddhist Triad Icon in Gandhara Its Spread Eastward and transformation (〈Senri Ethnological Studies〉 No. 32. National Museum of Ethnology 1992年)
（2）「1990年敦煌学国際シンポジウム」中国敦煌研究院における発表「敦煌本生故事的表題形式一以睒子本生故事画為例」(『敦煌研究』特刊総第27号1991年)
（3）「1997年第５回敦煌石窟国際シンポジウム」中国敦煌研究院における発表「敦煌における本生説話図の形式」
（4）「2000年敦煌学国際学術シンポジウム」中国敦煌研究院における発表「敦煌莫高窟等249窟窟頂を支配する帝釈天」

4　学会及び社会における活動

美術史学会会員；美学会会員；国際敦煌学会会員
日中人文社会科学交流協会常任理事　1996年―2000年
国際龍門石窟研究保護学会会長　2000年―
國立臺灣大學藝術史研究所評鑑委員會委員　2000年度
全国伝統的工芸品産業振興協会審査委員　2000年―
河西回廊沙漠緑化植林協会理事長　2002年―